



さわやか

第5号 令和7年9月1日発行

校長 塚田 秀和

□ 2学期のテーマは「答えのない授業とは」

さあ、今日から2学期がスタートしました。大きな事故もなく、無事に夏休みを終え、始業式では体育館で皆の顔が見られ、学校がにぎやかになったことが嬉しかったです。2学期に備えて、ゆっくり、体や心を休めることができたでしょうか。

さて、2学期始業式の話です。今年も異常に暑い夏でした。8月5日には日本国内の最高気温を記録し、田んぼやダムが干上がったニュースもあった後は、全国的に局地的な豪雨災害が見られ、七尾市で道路陥没もありました。2019年に環境省が発表した2100年未来の天気予報では、金沢の最高気温は42.4℃となっています。30年一度の気象を異常気象というのですが、この暑さは3年間続いています。

ところで、夏休みは、普段できないことに時間を使えることができるのがいいところです。教師としての人生が残り少ない私は、この夏休みに、これまで録画していた自分の授業を見て振り返ることにしました。その中で、20年ほど前に実施した「ロボットコンテスト」の授業がありました。(私は技術科の教員です)「答えのない授業」をしたいという想から「ロボットコンテスト」を企画し、制限時間内に多くのピン球をゴールに入れた方が勝ちという、コンテストのルールはありますが、ロボットに制限はありません。つまり、「答えがない」のです。

ロボットを製作する過程では、時間は過ぎていくけれども、何も進んでいない。何もしていないわけではなく「こうすればいいのかな、でも違うな」など一生懸命考えている。不具合が起きるとモータを少しづつ回転させ、ロボットから出る音を頼りに原因を探っていく。まるで、ロボットと会話しているかのように、目一杯考えていることに時間が過ぎていく。という場面を思い出しました。

そこで、2学期のテーマは「答えのない授業とは」としました。改めて考えると「答えのない授業」は「高中スタイル」の授業に似ています。「高中スタイルの」授業とは、「教師が生徒に、授業の中の多くの時間をさせて、自分で学び方を考えて、学習を進める」ものです。さらに、私が今、一番気に言っている漫画(「ありす、宇宙(どこ)までも」 売野 機子 作 小学館)とつながりました。その漫画の「子供は、自分の力で未来を変えることができる」「大人の予想を裏切ることができるのが子供の力だ」という言葉につながりました。

今年の夏も暑かったです。気象が変わると食糧も交通も変わります。気象に限らず、一つ変化があると、次は何に波及するか分からぬから、予測不可能な時代と言われています。ある出来事の対応について、人類が答えを一つしか持っておらず、その答えが違っていたらとんでもないことになります。だから「答えのない授業」つまり、それぞれがそれぞれの学び方をすることが大事だと考えます。

「高中スタイル」という「自分で学び方を考えて学習を進める」授業は、これからの中を生きる生徒には、必要なものです。大げさかもしれないが、「学ぶことは生きることだ」と思っています。

2学期は言うまでもなく、1年間で1番長い学期です。授業だけでなく、運動会、合唱コンクールなどの大きな行事もあります。2学期のテーマは「答えのない授業」です。学校生活全体を通して、自分で、気づき、知り、考え、進んでいくと素敵な2学期になると思っています。



「ありす、宇宙(どこ)までも」1巻より

□ 運動会、体操服登校のお知らせ

今年度の運動会は9月25日(木)に、とり野菜みそBLUECATS ARENA(市総合体育館)において開催します。この変更は、運動会当日及び運動会練習の暑さを考慮したもので、運動会当日、生徒は学校に集合しバスで移動します。また、給食がありませんので、昼食を持参させてください。

また、9月当初も暑い日が続くことが予想されますので、2日(火)より運動会終了後まで体操服登校を可能とします。(制服も可です。)体操服で授業を受けるため、体育の授業では、白のTシャツや、部活動で揃えたTシャツ等で構いません。なお、16日(火)からは運動会練習のため、全校生徒が体操服登校になります。